

## 県立大・栄養士会合同訓練

研究教育事業部  
高知県立大学 廣内 智子

平成29年11月5日（日）に高知県立大学と高知医療センターとの合同災害訓練が実施されました。この訓練の目的は、高知医療センターが災害時に基幹災害拠点病院としての機能を果たせるように、来院した軽症者と避難者、帰宅困難者を隣接する高知県立大学池キャンパスが受け入れ、さらに高知市から指定された地域住民の避難場所として運営することです。

災害時は、避難生活の長期化を見据えた栄養・食生活支援活動が重要となります。そのため、高知県立大学健康栄養学部では、食料対応チームとして避難所での円滑な食事提供の運営及び避難者の栄養状態の把握がスムーズに実施できるよう、合同訓練を通して最善の方法を検討することを目的とした訓練を、毎年実施しています。

今年度は、毎年実施している炊き出し訓練に加えて、要配慮者へ巡回栄養・食事相談を実施しました。具体的には、大規模な災害が発生した時に迅速に被災地へ赴き、栄養・食生活支援活動を担うための特別な訓練を受けた日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT: Japan Dietetic Association-Disaster Assistance Team）のリーダーに登録している者及び高知県栄養士会主催による「JDA-DAT スタッフ養成研修」を受けた高知県内の管理栄養士・栄養士（高知県立大学の教員3名を含む）が、避難所となる高知県立大学の体育館内において、高知県栄養士会の災害支援マニュアルにある「栄養・食生活相談票」を活用し、要配慮者へ巡回栄養・食事相談を行い、必要に応じて特殊栄養食品を提供するといった訓練を実施しました。

事前準備として、食物アレルギーがある方、疾病による食事制限が必要な方（腎臓病、糖尿病、高血圧など）、乳幼児、妊婦、授乳婦、嚥下困難な高齢者、視覚障害者、聴覚障害者、宗教上の理由で食べられない食材がある外国人など食事に特別な配慮が必要な方の避難者役を高知県立大学健康栄養学部3回生に仕込み、要配慮者の目印として学生の胸にシールを貼りました。

当日は、17名の管理栄養士・栄養士が訓練に参加され、4回生3名を含む18名が2人ペアで巡回栄養・食事相談にあたりました。必要に応じて特殊栄養食品やサプリメントの提供を行ったり、外国人の食べられない食材をコミュニケーションカードで確認したり、母乳が出ないと不安になっている授乳婦へミルクを提供したり、様々な栄養・食生活支援活動を1時間にわたって実施しました。

訓練終了後のJDA-DATの反省会では、「栄養・食生活相談票の記入がしづらかったため改善が必要」という課題や「勉強不足を痛感した。次回はポイントを押さ

えた上で参加したい」「避難者とのコミュニケーションの難しさを実感した」「JDA-DAT本部への報告が難しかった」等の感想を聞くことが出来ました。また訓練終了後、要配慮者に対して行ったアンケートでは、JDA-DATとの会話で「無理しないで下さいね」「不安なことはありますか？」などの声掛けが嬉しかったとのコメントを頂きましたが、その一方で、JDA-DATの接し方で気になったこととして「栄養アセスメントの説明や同意がなく、いきなり質問された」「体調を気にかける言葉がなかった」などのコメントも見られ、今後の課題点が明らかとなりました。

今後も高知県栄養士会と連携し、訓練を通して避難所で生じる健康問題を予防・改善するための栄養・食生活支援をより良く改善していく体制を整備していきたいと考えます。この度は大変お忙しい中、県立大学の合同訓練にご参加いただきました高知県栄養士会の皆様には感謝申し上げます。また次年度も、合同訓練へのご参加をお待ちしております。

